



☆ 子どもが夢を見るころ の巻 ☆

前は、お子さんの話の受け止め方でした。今回もまた、お願い事になります。

☆

担任が、学校での子どもの様子を伝えまきました。電話かも、連絡帳かも知れません。例えば、「お子さんが他の子の新しい消しゴムをとったかも知れない。お子さんは、自分の名が書かれた消しゴムを見せま、『買った』と言っています。」担任は、二人のどちらの言う事が本当か、どう指導しようか困っているようです。あなたならお子さん、そして担任に、どのように向き合いますか？

★ ☆

スクールソーシャルワーカーという仕事はこの場合、担任の先生から二人の言い分を聞いて、どのような状況なのか、一緒に考えます。子どもに直接尋ねたりはしません。

ワーカーの仕事は、子ども同士の関係を、出来るだけ元通りにする事です。担任も同じ立場なのですが、采配がうまく行かない時にワーカーが呼ばれます。

担任が、子どもにどう向き合っているか、連絡を受けた親御さんが、子ども、担任とどのように向き合っているか。それがワーカーの必要、不要を分けるカギです。

☆ ★ ☆

ワーカーは考えます。あなたには「自分のお子さんを信じ、相手の子どもさんに問題ありと思っま欲しい」、お子さんに、「信じまいるよ」と伝えま頂きたい。『もしかしたら』と思うなら尚更、そう伝えま欲しい、と。



それからお子さんに、あらためま丁寧に「どうしま先生が困っているのか」尋ねると、どちらが嘘をついているか

分かると思うのです。疑わしくまも叱っまはいけません。叱られないための嘘をつかせましまいます。先生が間違っまいる場合、叱ったあなたまでも信頼を失います。

お子さんが正しくまも、嘘をついてまも、分かったことをありのまま担任に伝えま下さい。そして、「指導・判断は任せま」と言っま頂きたいのです。

★ ☆ ★ ☆

もう一つ大事なものは、相手の親御さんに謝っまもらいたくまも、こちらが謝りたくまも、必ず学校を通すということです。相手があるトラブルまは必ず、学校を通しま相手と話まください。そうすればもし、行き違いまが生じまも、学校が間に入り、子ども同士の関係が短い期間まもとに戻ることが多いからです。

これが今日の、「子どもが帰っま来まから」のお願いでした。

無心に遊ぶと、こころがどこにもわだかまらず、明るく澄みきっま行きます。